

錦絵を摺ってみよう！

錦絵ってなに？

浮世絵のひとつ。浮世絵は江戸時代に流行した絵で、人気の役者や風景が描かれたよ。

浮世絵を描くのは浮世絵師で、紙などに浮世絵師が直接描いたものが肉筆画、描いたものをもとに木版画の形で作ったものが錦絵。



錦絵ができるまで

3つの役割に
わかれて作る

浮世絵師 絵をかく職人

彫師 版木（版画を作るための木の板）を小刀で絵のとおりに彫っていく職人

摺師 版木に色をつけて上から紙をのせ、紙がずれないように手で押さえながら上から手やバレンなどでこすり、紙に色をうつしていく職人

絵をかく 版木を彫る 色を摺る



『北斎仮宅之図』



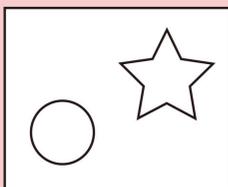
『的中地本問屋』2巻



『的中地本問屋』2巻

※いずれも（部分図）（国立国会図書館蔵）

下書き
下書きをかく。
色はつけないよ。

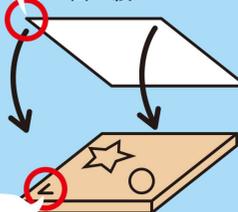


下書きをかけた紙

摺る
色をつけた版木に紙をのせ、紙の上からこするよ。色がずれないように、版木に見当という印をつけ、紙の角を合わせるよ。

この角を見当に合わせる

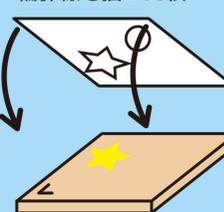
白い紙



見当

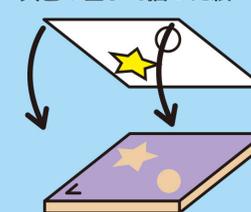
輪郭線用の版木

輪郭線を摺った紙



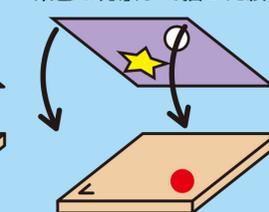
黄色用の版木

黄色の星まで摺った紙



紫色用の版木

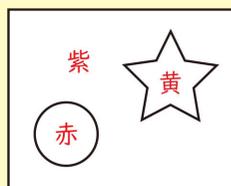
紫色の背景まで摺った紙



赤色用の版木

輪郭線用の版木

下書きを版木に貼り、輪郭線だけの版木を彫るよ。紙に摺り、何色にするか決めて、赤字で書くよ。



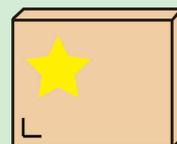
輪郭線だけ摺られた紙

色用の版木

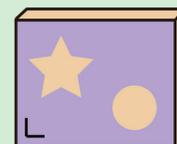
必要な色の数分、版木を彫るよ。



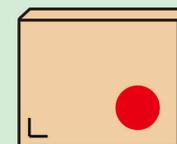
輪郭線用の版木



黄色用の版木

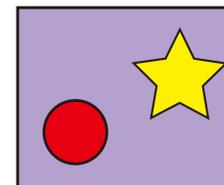


紫色用の版木



赤色用の版木

完成



作り方

ざいりょう け けんどう えんぴつ ちようこくとう え ぐ
 材料：消しゴム（消しゴムはんこ用がおすすめ。必要色の数分準備）トレーシングペーパー、紙
 道具：鉛筆、彫刻刀、絵の具
 ※使う道具は現代風にアレンジしています。

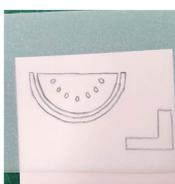


オリジナル
デザインで
作ってみよう。

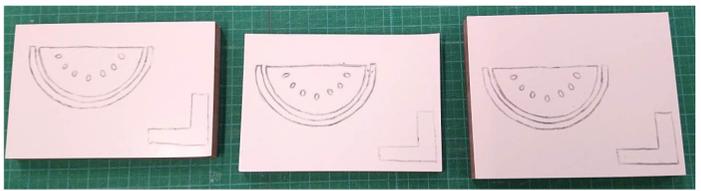
① 絵をかく (例：スイカ)



絵の上にトレーシングペーパーを置いて、鉛筆でなぞる。

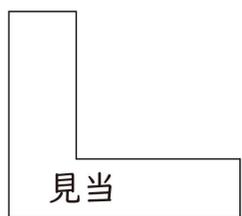
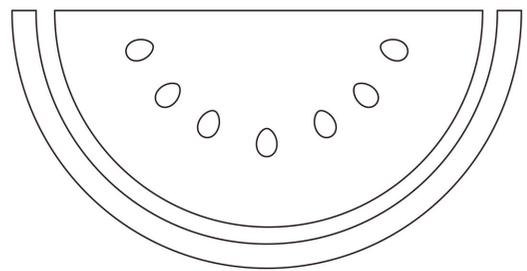


消しゴムの上にトレーシングペーパーを裏返して置き、爪などでこすって絵をうつす。



今回は種の黒、果肉の赤、皮の緑の3色必要なので3枚作るよ。

(例 スイカ)



見当

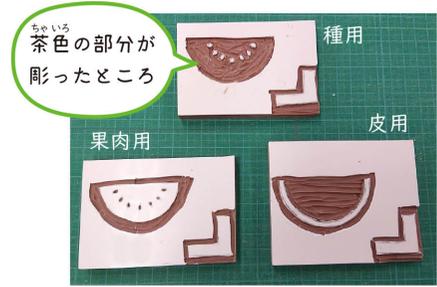
例で使ったスイカの実物大イラスト。このまま下絵として使えます。おうちでも作ってみてね。

② 消しゴムを彫る

種用の消しゴムは種以外を彫るというように、色をつけるのこころを残すよ。



彫刻刀を使う時は手を切らないように注意！大人と一緒に使おう。



茶色の部分が彫ったところ

見当のまわりも彫ろう。

③ 摺る

絵の具で色をつけ、紙の角を見当に合わせてのせ、摺る。



皮の部分に緑の絵の具をつける。



赤い絵の具で果肉



黒い絵の具で種



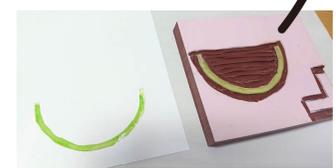
上に紙（今回はハガキを使用）をのせる。

ポイント

見当の角と紙の角を合わせる。



紙がずれないように押さえながら、こする。



皮の部分が折れた！



暑中見舞いにピッタリ！

げんざい じょうせつてん じ しつ
 現在、常設展示室に
 かつしか ぼくさい ふ かく さん じゅうろっけい
 葛飾北斎の「富嶽三十六景」
 を展示しています。
 ぜひこちらもご覧ください！

こうしゅうみ さかすいめん
「甲州三坂水面」
展示期間 ▶ 令和5年6月21日
~7月24日

こうしゅうかじかざわ
「甲州石斑澤」
展示期間 ▶ 令和5年7月26日
~8月21日